

だい しょう てんしゅ
第1章 みんなのお天守になる

丸岡城は1576年
(天正4年)
柴田勝豊が築城した



江戸の初めに本多家によって
造られたこの天守は
幕末まで残り
地元の人は親しみを込めて
「お天守」と呼んだ

時代は明治に移り
武士の時代では
無くなったため

丸岡から
殿様はいなくなり
お城は
いらぬものになつた

さらば
わが城……



丸岡城は
売り払われ

城山は
いつのまにか
天守を残して
丸裸に
なってしまった

すっかり
お天守が
さびれた姿に…

安い値で
払い下げられた
らしいわ



そのうち天守が
壊されるといふ噂が
町中に流れていた

1873年(明治6年)
明治政府から不要な城を
整理するための法律が公布



すると—

お天守を
壊すなんて
とんでもない

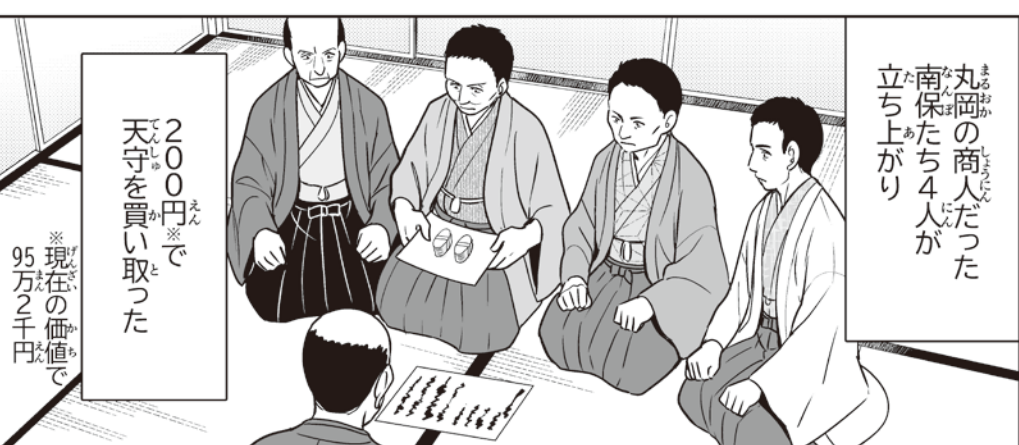
わしらが
買い取る!

南保治平

吉川勘助

中野吉平

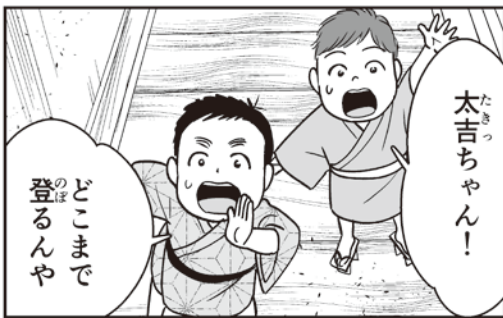
長侶市郎右衛門



丸岡の商人だった
南保たち4人が
立ち上がり

200円※で
天守を買い取った

※現在の価値で
95万2千円







町の人の説得により
南保らの子孫は
天守を町に
寄付することにした



だいは
痛んでるのお

寺として
20年近く経ち
天守を維持するのが
難しくなってきた



お天守を直すための
寄付をお願いします

戸田喜平、
藤嶋與吉が中心となって
義援金を集めることになった



お寺では
ろうそくも使うし
火事になったら危ない

このままでは
心配やなあ



1901年
(明治34年)
天守は町の公会堂となり
その後修繕された

さらに城山には
桜が植えられ
みんなの憩いの場所に
生まれ変わった

明らかにおまらに
治まる御代のしるしには
霞める城も現れにけり

旧丸岡藩
藩主 有馬道純

こうして「お天守」は
みんなのお天守となった

だい しょう てんしゆ こくほう
第2章 お天守、国宝となる



それから
 30年以上の月日が流れ...

お天守が
 国宝に
 指定されたぞ!

1934年(昭和9年)
 1月30日

新しく制定された
 国宝保存法により
 丸岡城天守は国宝に
 指定された

いや、
 よかった
 よかった

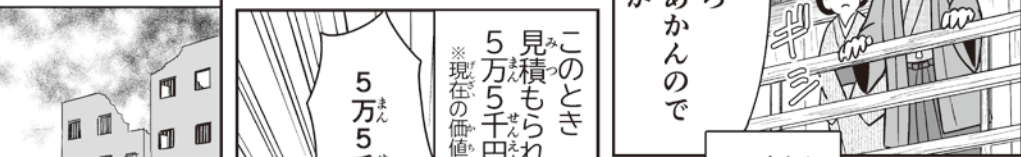
国宝のお天守を見に
 観光客がよーけ※
 来るぞ
 ※たくさん



お天守すべてを
 解体とは...

いったい
 どれくらい
 かかるんや

しかし1937年
 (昭和12年)
 日中戦争が始まり
 天守の修理計画は
 いったん延期に



お天守は
 ぼろぼろやな

そろそろ
 直さなあかんの
 でないか

このとき
 見積もられた金額は
 5万5千円※となつた
 ※現在の価値でおよそ5千万円

5万5千円!



翌年には
 国家総動員法が施行され
 日本は厳しい時代に
 突入していく



やがて
 文部省※の調査が入り
 ※現在の文部科学省

天守すべてを解体して
 修理を行う方針となつた



ほかに誰か
いないか

そういえば

丸岡女学校の
建設のために寄付を
してくれた人が
北海道の小樽に
いると…



県外にいる
丸岡出身の人から
寄付を募るのは？

なるほど



こんな
ご時世ですし…

しかし
みんな
寄付の話に
なると
断つた



このままお天守の修理が
進まないと国宝の城が
壊れてしまう…

丸岡町長
桑橋茂二



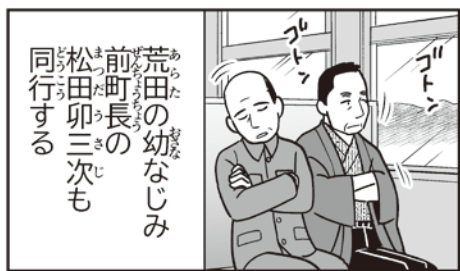
しかし
町長

小学校の建設も
ありますし
こんな巨額の
費用はととも…



よし
北海道へ
行くぞ！

ダ！！



荒田の幼なじみ
前町長の
松田卯三
も
同行する



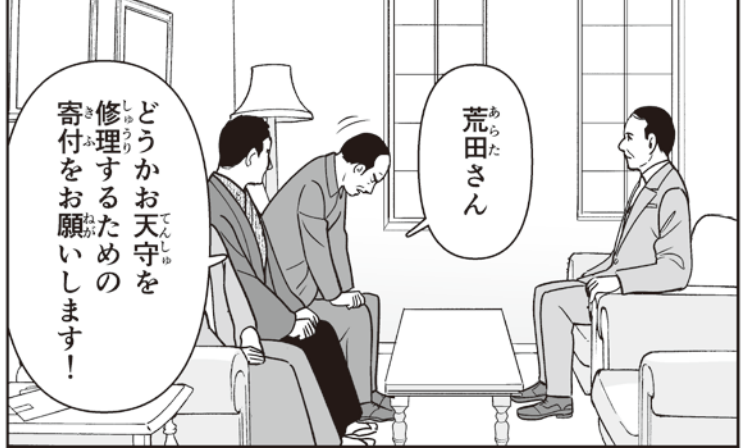
荒田太吉さんか！

荒田太吉 当時63歳

かつて
天守で遊んでいた少年は
北海道の小樽で
海運業など
多くの事業を起こし
成功を収めていた



小樽
荒田商会



だい しょう
第3章 お天守の解体、そして修理へ



それより戦争中だから
物資や人手の不足に
気を付けなければ…

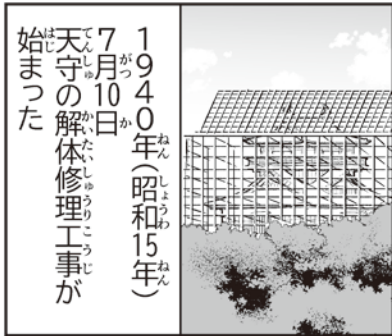
天守に関わるのは
初めてだが
なんとかなるだろう



竹原吉助※

国から派遣された
主任技手

寺社などの伝統建築の
設計技術に長けていた



1940年(昭和15年)
7月10日
天守の解体修理工事が
始まった

※現在の文化財建造物修理技術者のさきがけとなった人



本当ですか？

今ちようど
丸岡城天守の工事が
行われているのを
ご存じですか

天守すべてを
解体して行うという
大掛かりな工事
だそうですよ

新聞記者

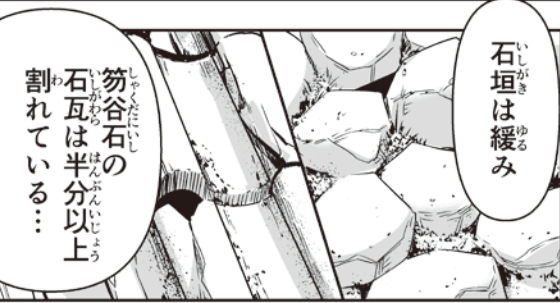


福井市内の茶屋

私は
文化的な映像を
撮ることが
夢でしてね

いつか郷土の
歴史的な遺跡や
文化を扱った映像を
撮って歩きたい

写真店店主
光山香至



石垣は緩み

笏谷石の石瓦は半分以上割れている…



撮影できれば日本で初めての貴重な映像になりますよ！

それはやりたいです！



大きな柱も腐っている

鯨銼の木芯もだめか…

かなりの入れ替えだな



翌日 丸岡町役場

費用は町でなんとかしますぜひやってください

ありがとうございます！



素屋根※で光が入らん… ※建物や雨から守る仮設の建物

もっとこっちはか？

光山さん ごくろうさまです

記録写真も細かく撮っておかねば



部材は檜がいいが今は手に入りにくい

桂を使うとしても本州だけでは材料が確保できない…

木材は遠方からも探してくれ

足りない瓦は
冬でも割れにくい
石川の滝ヶ原石※で
作り直そう

※現在の小松市
滝ヶ原地区で
採掘された石材

カリン

カリン

木材は戦時下でも
なんとか手に入れることが
できたが

鯨鉾は銅が手に入らず
石で造ることになった

それでも2年後の
1942年(昭和17年)
12月

天守の解体修理を
無事に
終わることができた

おお!...

なんと立派な

これで
昔の人たちに
申し訳が立つ

荒田さんや
竹原さんたちの
おかげや

今回は
運がよかった

もし
着工が遅れていたら
完成しなかった

ふう…



旦那様
元氣になったら
一緒にお天守を
見に行きましょう…

うん…

お天守の晴れ姿を
見られんとは…
なんてことだ

小樽



えっ
なんですって!?
荒田さんが
けがをして
落成式に
来られない?



竹原さん
ありがとうございます
ございました

どうか丸岡城天守を
大事にしてください…!

2年後の
1945年(昭和20年)
8月15日
日本は終戦を迎えた



この天守は
丸岡のみなさんにとって
あこがれであり
誇りです

天守を守り伝えることが
故郷を離れた人にとっても
郷土を愛する気持ちに
つながります